

塩野谷祐一先生年譜及び主要著作目録

I 年 譜

1 学 歴

- 1932年(昭和 7年) 1月2日 愛知県豊橋市に生まれる
 1938年(昭和13年) 4月 横浜市立横浜小学校入学
 1943年(昭和18年) 9月 名古屋市立田代国民学校に転校
 1944年(昭和19年) 3月 同校卒業
 4月 愛知県立第一中学校入学
 1948年(昭和23年) 3月 同校第四学年修了
 4月 第八高等学校文科乙類入学
 1949年(昭和24年) 3月 同校第一学年修了
 4月 名古屋大学経済学部入学
 1953年(昭和28年) 3月 同校卒業
 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
 1955年(昭和30年) 3月 同課程修了
 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程入学
 1958年(昭和33年) 3月 同課程単位修得の上退学
 1985年(昭和60年) 3月 経済学博士(一橋大学)

2 職 歴

- 1958年(昭和33年) 5月 一橋大学助手(経済学部)
 1959年(昭和34年) 11月 一橋大学講師(経済学部)
 1961年(昭和36年) 7月 オックスフォード大学にて研究(プリティッシュ・カウンシル・
 スカラー, 1962年9月まで)
 1962年(昭和37年) 9月 ハーバード大学, エール大学にて研究(ロックフェラー財団フェ
 ロー, 1963年12月まで)
 1964年(昭和39年) 4月 一橋大学助教授(経済学部)
 1968年(昭和43年) 12月 デリー大学にて研究(外務省派遣, 1969年5月まで)
 1972年(昭和47年) 4月 一橋大学教授(経済学部)
 1977年(昭和52年) 4月 一橋大学評議員(1979年3月まで)
 1979年(昭和54年) 11月 ボッコニー大学にて研究(外務省派遣, 1980年3月まで)
 1983年(昭和58年) 1月 オックスフォード大学にて研究(文部省派遣, 1983年3月まで)
 1985年(昭和60年) 4月 一橋大学経済学部長(1987年3月まで)
 1989年(平成元年) 7月 ニュールンベルク大学にて研究(一橋大学後援会派遣, 1989年9
 月まで)
 12月 一橋大学長(1992年11月まで)
 1992年(平成4年) 12月 一橋大学教授(経済学部)

1993年(平成5年)	9月	米国ナショナル・ヒューマンティニー・センターにて研究(センター・フェロー, 1994年4月まで)
1995年(平成7年)	3月	一橋大学定年退官
	4月	一橋大学名誉教授
	4月	社会保障研究所長(1996年11月まで)
1996年(平成8年)	12月	国立社会保障・人口問題研究所長(2000年3月まで)

3 政府審議会関係

総理府

行政改革会議委員

文部省

大学審議会委員

経済企画庁

経済審議会委員

国民生活審議会会長(現在)

厚生省

医療保険審議会会長

医療保険福祉審議会 制度企画部会委員(現在)

医療保険福祉審議会 運営部会部会長(現在)

4 団体等役員

学位授与機構評議員

大学入試センター評議員

国立学校財務センター評議員

日本育英会評議員

国立大学協会副会長

大学基準協会副会長

如水会理事

公益法人協会顧問

理論・計量経済学会理事

国際シュンペーター学会会長

日本学会議会員(現在)

経済学史学会幹事(現在)

進化経済学会理事(現在)

一橋大学後援会評議員(現在)

日本赤十字社血液事業審議会委員(現在)

三菱財団評議員(現在)

三菱経済研究所理事(現在)

総合研究開発機構研究評議会議長(現在)

年金総合研究センター企画委員会委員(現在)

家計経済研究所会長(現在)

旭硝子財団評議員（現在）

II 主要著作目録

1 著 書

『福祉経済の理論』日本経済新聞社，1973年。

『現代の物価』日本経済新聞社，1973年，増補版，1977年。

『価値理念の構造——効用対権利』東洋経済新報社，1984年。

『シュンペーター的思考——総合的社会科学の構想』東洋経済新報社，1995年。

Schumpeter and the Idea of Social Science : A Metatheoretical Study, Cambridge : Cambridge University Press, 1997.

『シュンペーターの経済観——レトリックの経済学』岩波書店，1998年。

『経済と倫理——福祉国家の哲学』創文社，2000年。

2 編著・共著

『経済成長と産業構造』（山田雄三・今井賢一と共編）春秋社，1965年。

『財政支出』（長期経済統計第7巻）（江見康一と共著）東洋経済新報社，1966年。

『物価』（長期経済統計第8巻）（大川一司他と共著）東洋経済新報社，1967年。

『日本経済論——経済成長100年の分析』（江見康一と共編）有斐閣，1973年。

『経済体制論・第III巻・現代資本主義』（編著）東洋経済新報社，1978年。

『昭和財政史——終戦から講和まで』第10巻（国庫制度国庫収支・物価・国家公務員給与・預金部資金・資金運用部資金），大蔵省財政史室編（鈴木武雄他と共著），東洋経済新報社，1980年。

『国立大学ルネサンス——生まれ変わる「知」の拠点』1・2（有馬朗人・太田時男と共編）同文書院，1993年。

The Good and the Economical, ed. with P. Koslowski, Berlin : Springer-Verlag, 1993.

Innovation in Technology, Industries, and Institutions, ed. with M. Perlman, Ann Arbor : University of Michigan Press, 1994.

Schumpeter in the History of Ideas, ed. with M. Perlman, Ann Arbor : University of Michigan Press, 1994.

『企業内福祉と社会保障』（藤田至孝と共編），東京大学出版会，1997年。

『先進諸国の社会保障』全7巻（武川正吾その他と共編），東京大学出版会，1999-2000年。

The German Historical School : The Historical and Ethical Approach to Economics, London : Routledge, 2000.

Competition, Trust, and Cooperation : A Comparative Study, ed. with K. Yagi, Berlin : Springer-Verlag, 2000.

3 翻 訳 書

C. シュルツ『国民所得分析』東洋経済新報社，1965年。

S. クズネッツ『近代経済成長の分析』（上・下）東洋経済新報社，1968年。

J. A. シュンペーター『経済発展の理論』（上・下）（中山伊知郎・東畑精一と共訳）岩波書店，1977年。

D. モグリッジ『ケインズ』東洋経済新報社, 1979年。

J. M. ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社, 1983年。

4 受賞

- 1985年(昭和60年)11月 日経・経済図書文化賞受賞(著書『価値理念の構造—効用対権利』に対して)
- 1989年(平成元年)11月 日経・経済図書文化賞受賞(共著『長期経済統計』第7巻および第8巻に対して)
- 1991年(平成3年)6月 日本学士院賞受賞(著書『価値理念の構造—効用対権利』に対して)

5 論文(日本語)

- 「所得分析における分配論的接近」『一橋研究』1955年2月。
- 「所得循環と市場構造——カレツキー体系の一解釈」『季刊理論経済学』1956年4月。
- 「資本蓄積に関するヴィクセル効果とリカード効果」『一橋論叢』1956年12月。
- 「財政政策的計画モデル——カルドアを中心として」山田雄三・久武雅夫編『社会的評価の研究』日本評論社, 1957年5月。
- 「収穫逓増と外部経済に関する覚書」『季刊理論経済学』1957年6月。
- 「長期経済計画におけるインテンションとエクスペクテーション」山田雄三・久武雅夫編『経済計画と予測』日本評論社, 1957年6月。
- 「雇用政策について」山田雄三・久武雅夫編『日本の経済計画』日本評論社, 1957年8月。
- 「経済計画における投資配分と貯蓄率」一橋大学研究年報『経済学研究』3, 1959年3月。
- 「産業構造の策定基準」篠原三代平編『産業構造』春秋社, 1959年7月。
- 「不均衡成長の理論」『通商産業研究』1960年1月。
- 「ヒックス・価値と資本」『経済セミナー』1960年5月。
- 「計画と実績との比較—変動とギャップ」山田雄三・久武雅夫編『経済計画』春秋社, 1960年7月。
- 「下村理論と産出係数・設備投資比率」『経済評論』1960年12月。
- 「下村治・成長政策の基本問題へのコメント」『季刊理論経済学』1961年3月。
- 「わが国長期経済計画の問題点」日本経済政策学会編『現代日本経済における国家の役割』1961年3月。
- 「アーサー・セシル・ピグー」『一橋論叢』1961年4月。
- 「成長産業と重化学工業化」中山伊知郎編『資本蓄積と金融構造』東洋経済新報社, 1961年4月。
- 「産業構造——成長との関連性」『経済セミナー』1961年6月。
- 「フィリピンの経済循環」『金融ジャーナル』1961年6月。
- 「経済計画」中山伊知郎編『統計学大辞典』東洋経済新報社, 1962年。
- 「フィリピン経済開発の問題点」馬場啓之助編『フィリピンの経済開発』アジア経済研究所, 1962年3月。
- 「経済発展と産業構造」日本産業構造研究所『調査年報』5, 1964年3月。
- 「わが国工業化の二部門パターン」『一橋論叢』1964年11月。
- 「工業化の二部門パターン——アメリカおよびスウェーデンの分析」一橋大学研究年報『経済学研究』9, 1965年3月。

- 「産業構造の国際比較」小泉明・篠原三代平編『日本の産業』日本経済大系 II, 青林書院新社, 1965年2月。
- 「工業化の二部門パターン——ホフマン法則の批判」山田雄三・塩野谷祐一・今井賢一編『経済成長と産業構造』春秋社, 1965年10月。
- 「成長パターンの産業連関分析」『経済研究』1965年10月。
- 「工業化パターンの産業連関分析」『一橋論叢』1966年1月。
- 「産業発展形態論」宮沢健一編『産業構造分析入門』有斐閣, 1966年5月。
- 「中央政府活動の構造分析」江見康一・塩野谷祐一『財政支出』(長期経済統計第7巻) 東洋経済新報社, 1966年9月。
- 「日本の工業化と外国貿易」『一橋論叢』1966年11月。
- 「日本の工業生産指数, 1874-1940年」篠原三代平『産業構造論』別冊, 筑摩書房, 1966年11月。
- 「工業品価格の長期分析」一橋大学研究年報『経済学研究』11, 1967年3月。
- 「工業発展の形態」篠原三代平・藤野正三郎編『日本の経済成長』日本経済新聞社, 1967年4月。
- 「工業製品物価指数」大川一司他『物価』(長期経済統計第8巻) 東洋経済新報社, 1967年9月。
- 「日本のコスト・インフレ論の再吟味」『統計年鑑』1968年5月。
- 「産業構造の国際比較」内田忠夫他編『産業連関分析』有斐閣, 1968年9月。
- 「交易条件の構造」『一橋論叢』1968年11月。
- 「貿易と国内市場」中山伊知郎・篠原三代平編『日本の工業化』潮出版社, 1969年4月。
- 「インド第4次五ヵ年計画の分析」一橋大学研究年報『経済学研究』15, 1971年3月。
- 「混合経済における経済計画の論理」『一橋論叢』1971年4月。
- 「インフレーションとマクロ的所得分配」篠原三代平編『現代インフレーションとの対決』世界政学研究会, 1972年6月。
- 「公害と経済体制」『一橋論叢』1971年7月。
- 「消費者主権と経済体制」『経済評論』1971年10月。
- 「公共経済学と国家の理論」『季刊現代経済』3, 1971年12月。
- 「経済成長の数量的研究」『季刊現代経済』8, 1973年3月。
- 「工業成長と外国貿易」(山沢逸平と共同) 大川一司・速見佑次郎編『日本経済の長期分析』日本経済新聞社, 1973年5月。
- 「汚染者負担原則について」『一橋論叢』1973年11月。
- 「所得政策の理論的検討」新開陽一・新飯田宏編『インフレーション』(リーディングス・日本経済論), 日本経済新聞社, 1974年1月。
- 「福祉と民主主義の理論」『季刊社会保障研究』1974年1月。
- 「社会的公正の理論・ノート」(1)～(20)『地域開発ニュース』1974年11月～1978年5月。
- 「インフレーションと新産業国家・福祉国家」宮沢健一編『超インフレ時代』学陽書房, 1975年2月。
- 「インデクセーションをめぐる問題点」『一橋論叢』1975年4月。
- 「工業品需要の構造分析」大川一司・南亮進編『近代日本の経済成長』東洋経済新報社, 1975年4月。
- 「イギリス——労働党政権の物価政策」「フランス——契約による自由価格制度」「フィンランド——インデクセーションから所得政策へ」荒憲治郎編『インフレーションと物価政策』日本経済新聞社, 1976年3月。

- 「インフレーションと貯蓄対策」『貯蓄・貨幣の基礎理論』貯蓄増強委員会, 1976年8月。
- 「アメリカの経済計画論争」(上・下)『通産ジャーナル』1976年8月, 9月。
- 「現代のインフレーション」熊谷尚夫編『経済思想と現代の世界』日本経済新聞社, 1976年10月。
- 「道徳哲学の方法」『一橋論叢』1978年1月。
- 「現代資本主義の社会哲学」塩野谷祐一編『経済体制論・第III巻・現代資本主義』東洋経済新報社, 1978年11月。
- 「占領期経済政策論の類型」荒憲治郎他編『戦後経済政策論の争点』勁草書房, 1980年4月。
- 「工業化パターン」『経済学大辞典』II, 東洋経済新報社, 1980年4月。
- 「政策基準としての効率と公正」日本経済政策学会編『効率と公正の経済政策』勁草書房, 1980年5月。
- 「物価」大蔵省財政史室編『昭和財政史—終戦から講和まで』第10巻(国庫制度国庫収支・物価・国家公務員給与・預金部資金・資金運用部資金), 東洋経済新報社, 1980年5月。
- 「価値理念の方法論」一橋大学研究年報『経済学研究』23, 1981年8月。
- 「ロールズの社会契約論の構造」一橋大学研究年報『人文科学研究』21, 1981年11月。
- 「ミルの功利主義の構造」『一橋論叢』1981年11月。
- 「モラル・サイエンスとしての経済学」『経済セミナー』1982年5月。
- 「価値研究の方法と問題」『一橋論叢』1982年6月。
- 「シジウィックの功利主義の構造」一橋大学研究年報『経済学研究』24, 1983年1月。
- 「ケインズの道徳哲学——『若き日の信条』の研究」『季刊現代経済』52, 1983年3月。
- 「資本主義文明の衰退と社会主義」『別冊経済セミナー』(シュンペーター再発見), 1983年3月。
- 「西部邁氏の感情的反論に対する理性的回答」『季刊現代経済』54, 1983年7月。
- 「シュンペーターにおける科学とイデオロギー」『三田学会雑誌』1984年2月。
- 「シュンペーターの問題と方法——方法序説」一橋大学研究年報『経済学研究』25, 1984年3月。
- 「効用対権利——規範的経済学の哲学的基礎」『理想』1985年4月。
- 「ケインズ政策と賃金決定制度」日本経済政策学会編『地域開発と経済政策』1985年5月。
- 「反論・『一般理論』通説は誤りか——ケインズの労働需給関数について」『経済セミナー』1985年6月。
- 「シュンペーター」日本経済新聞社編『現代経済学ガイド——人と理論のプロフィール』日本経済新聞社, 1985年11月。
- 「ケインズ理論と因果性」『経済セミナー』1986年1月。
- 「シュンペーターと純粋経済学」一橋大学研究年報『経済学研究』27, 1986年2月。
- 「経済思想としての『一般理論』」日本大学経済学研究会『経済集志』1986年10月。
- 「経済哲学の現在——左右田・杉村とそれ以後」『一橋論叢』1987年7月。
- 「シュンペーターの経済思想」(1)～(6), 簡保資金研究会『かんぽ資金』1988年2月～7月。
- 「杉村広蔵とシュンペーター」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』8, 1988年3月。
- 「シュンペーター・シュモラー・ウェーバー——歴史認識の方法論」『一橋論叢』1988年12月。
- 「シュンペーターの「アンナの日記」」一橋大学社会科学古典資料センター, スタディー・シリーズ21, 1990年3月。
- 「グスタフ・フォン・シュモラー——ドイツ歴史派経済学の現代性」『一橋論叢』1990年4月。
- 「経済学における価値理念の構造——効用対権利」日本学術振興会『学術月報』1992年1月。
- 「競争の倫理」『ビジネス・レビュー』1992年2月。

- 「シジウィック・ムア・ケインズ——ケインズの『若き日の信条』の哲学的分析」大石泰彦・福岡正夫編『経済理論と計量分析』早稲田大学出版部，1992年3月。
- 「シュンペーター経済学の現代的意義」『季刊 Capital Market Research』1992年7月。
- 「大学の理念と国立大学のレゾンデートル——大学の四次元モデル」有馬朗人・太田時男・塩野谷祐一編『国立大学ルネサンス——生まれ変わる「知」の拠点』1・2，同文書院，1993年3月。
- 「競争の倫理」『世界経済』1994年5/6月。
- 「競争の倫理」加藤寛孝編『自由経済と倫理』成文堂，1995年3月。
- 「経済と倫理」『経済学史学会年報』第33号，1995年10月。
- 「ノーマライゼーションとケアの倫理学」『都市問題研究』1996年4月。
- 「医療保険制度改革の課題」『週刊社会保障』1997年1月。
- 「社会保障と道徳原理」『季刊社会保障研究』1997年3月。
- 「成熟社会における社会保障の理念」『健康保険』1997年4月。
- 「医療保険制度改革の課題」『週刊社会保障』1998年1月6日。
- 「シュンペーターと歴史学派」住谷一彦・八木紀一郎編『歴史学派の世界』日本経済評論社，1998年1月。
- 「シュンペーター：規制から革新へ，長期的発展の視野」『経済セミナー』1998年4月。
- 「政策研究と研究政策」『ESP』1998年4月。
- 「高齢者医療制度改革の方向」『社会保険旬報』1999年1月。
- 「社会保障の倫理的基礎を求めて」『生活と福祉』1999年1月。
- 「行政改革と国立医療」厚生省保健医療局・国立病院部『飛翔』1999年1月。
- 「保険と扶助——通説の批判」『社会保険旬報』1999年4月。
- 「アマルティア・セン教授との対話」『季刊社会保障研究』1999年6月。
- 「総合的社会科学とシュンペーター」『経済セミナー』2000年2月。
- 「福祉国家の危機と公共的理性」『季刊社会保障研究』2000年6月。
- 「哲学なき経済学史研究を超えて」『経済学史学会年報』第38号，2000年11月。

6 論文(外国語)

- “Patterns of Industrial Growth in the United States and Sweden: A Critique of Hoffmann’s Hypothesis,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1964.
- “Arthur Cecil Pigou, 1877-1959,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1965.
- “Patterns of Industrial Development,” in L. Klein & K. Ohkawa (eds.), *Economic Growth: The Japanese Experience since the Meiji Era*, Illinois: Richard D. Irwin, 1968.
- “Growth of Industrial Economies: Reply to Professor Hoffmann,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, June 1970.
- “Toward the Logic of Indicative Planning in Mixed Economies,” Japan Economic Research Center, *Economic Planning and Macroeconomic Policy*, Vol. 1, Tokyo, 1971.
- “Industrial Growth and Foreign Trade in Postwar Japan,” (with I. Yamazawa), in K. Ohkawa & Y. Hayami (eds.), *Papers and Proceedings of the Conference on Japanese Experience and the Contemporary Developing Countries; Issues for Comparative Analysis*, International Development Center of Japan, Tokyo, 1973.
- “Current Inflation in Japan: A Long Neglected Policy Objective,” in *Japan-U. S. Assembly*,

- Proceedings of a Conference on Japan-U. S. Economic Policy, American Enterprise Institute for Public Policy Research, Washington, D. C., 1975.
- “Patterns of Economic Policy in Occupied Japan, 1945-52,” in G. Daniels (ed.), *Europe Interprets Japan*, Kent: Paul Norbury, 1984.
- “The Science and Ideology of Schumpeter,” *Rivista Internazionale di Scienze Economiche e Commerciali*, August 1986. Reprinted in Mark Blaug (ed.), *Frank Knight (1885-1972), Henry Simons (1899-1946), Joseph Schumpeter (1883-1950)*, Aldershot: Edward Elgar, 1992.
- “Wide Reflective Equilibrium and the Theory of Rights,” *Kyoto American Studies Summer Seminar Specialist Conference*, Kyoto, 1987.
- “The Schumpeter’s Family in Trest,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, December 1989.
- “Schmollers Forschungsprogramm: Eine methodologische Würdigung,” in J. G. Backhaus, Y. Shionoya, and B. Schefold, *Gustav Schmollers Lebenswerk: Eine kritische Analyse aus moderner Sicht*, Düsseldorf: Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1989.
- “Instrumentalism in Schumpeter’s Economic Methodology,” *History of Political Economy*, Summer 1990. Reprinted in Bruce J. Caldwell (ed.), *The Philosophy and Methodology of Economics*, vol. I, Aldershot: Edward Elgar, 1993. Also reprinted in Horst Hanusch (ed.), *The Intellectual Legacy of Joseph Alois Schumpeter*, vol. 2, Aldershot: Edward Elgar, 1999.
- “The Origin of the Schumpeterian Research Program: A Chapter Omitted from Schumpeter’s *Theory of Economic Development*,” *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, June 1990.
- “Schumpeterova rodina v Tresti,” *Politická Ekonomie*, November 1990.
- “Die Familie Schumpeter in Trest,” in H. Hanusch, A. Heertje, and Y. Shionoya, *Schumpeter—der Ökonom des 20. Jahrhunderts*, Düsseldorf: Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1991.
- “Schumpeter on Schmoller and Weber: A Methodology of Economic Sociology,” *History of Political Economy*, Summer 1991.
- “Sidgwick, Moore and Keynes: A Philosophical Analysis of Keynes’s *My Early Beliefs*,” in B. W. Bateman and J. B. Davis (eds.), *Keynes and Philosophy: Essays on the Origin of Keynes’s Thought*, Aldershot: Edward Elgar, 1991.
- “Taking Schumpeter’s Methodology Seriously,” in F. M. Scherer and M. Perlman (eds.), *Entrepreneurship, Technological Innovation, and Economic Growth: Studies in the Schumpeterian Tradition*, Ann Arbor: University of Michigan Press, 1992.
- “Max Webers soziologische Sicht der Wirtschaft,” in K. H. Kaufhold, G. Roth, and Y. Shionoya, *Max Weber und seine »Protestantische Ethik«*, Düsseldorf: Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1992.
- “A Non-Utilitarian Interpretation of Pigou’s Welfare Economics,” in P. Koslowski and Y. Shionoya (eds.), *The Good and the Economical*, Berlin: Springer-Verlag, 1993.
- “The Ethics of Competition,” *European Journal of Law and Economics*, March 1995.
- “A Methodological Appraisal of Schmoller’s Research Program,” in P. Koslowski (ed.), *The Theory of Ethical Economy in the Historical School*, Berlin: Springer-Verlag, 1995.
- “Getting Back Max Weber from Sociology to Economics,” in H. Rieter (ed.), *Studien zur Entwicklung der ökonomischen Theorie XV: Wege und Ziele der Forschung*, Berlin: Dunck-

- er & Humblot, 1996.
- “The Sociology of Science and Schumpeter’s Ideology,” in L. S. Moss (ed.), *Joseph A. Schumpeter, Historian of Economics*, London: Routledge, 1996.
- “Joseph A. Schumpeter,” in T. Cate (ed.), *An Encyclopedia of Keynesian Economics*, Cheltenham: Edward Elgar, 1997.
- “Reflections on Schumpeter’s History of Economic Analysis in Light of His Universal Social Science,” J. P. Henderson (ed.), *The State of the History of Economics*, London: Routledge, 1997.
- “Schumpeterian Evolutionism,” in J. B. Davis, D. W. Hands, and U. Mäki (eds.), *The Handbook of Economic Methodology*, Cheltenham: Edward Elgar, 1997.
- “Social Security and Moral Principles,” *Review of Population and Social Policy*, No. 7, 1998.
- “Pigous Wohlfartsökonomik und seine ethische Überzeugung,” in R. A. Musgrave, U. H. Raab, and Y. Shionoya, *Arthur Cecil Pigous »Wealth and Welfare«*, Düsseldorf: Verlag Wirtschaft und Finanzen, 1998.
- “Economy and Morality: A Conceptual Framework,” in M. M. G. Fase, W. Kanning, and D. A. Walker (eds.), *Economics, Welfare Policy and the History of Economic Thought: Essays in Honour of Arnold Heertje*, Cheltenham: Edward Elgar, 1999.
- “Joseph Schumpeter and the German Historical School,” in P. Koslowski (ed.), *The Theory of Capitalism in the German Economic Tradition*, Berlin: Springer-Verlag, 2000.
- “Trust as a Virtue,” in Y. Shionoya and K. Yagi (eds.), *Competition, Trust, and Cooperation: A Comparative Study*, Berlin: Springer-Verlag, 2000.
- “Rational Reconstruction of the German Historical School: An Overview,” in Y. Shionoya (ed.), *The German Historical School: The Historical and Ethical Approach to Economics*, London: Routledge, 2000.
- “Joseph Schumpeter on the Relationship between Economics and Sociology from the Perspective of Doctrinal History,” in Y. Shionoya (ed.), *The German Historical School: The Historical and Ethical Approach to Economics*, London: Routledge, 2000.

7 その他

辞書，書評，新聞，一般雑誌等への寄稿は省略。